

スポンサー様

2012 Hot Products IJSBA World Finals

開催場所

アリゾナ州,レイクハバスシティ

開催日

10月1日~8日

出場クラス

Ski Classic 2-Stroke

GP Ski

Pro Ski Open

結果

Ski Classic 2-Stroke グリッド予選 : 1位

Moto#1 : 1位

Moto#2 : 1位

総合 : **ワールドチャンピオン**

Pro GP Ski グリッド予選 : 7位

Moto#1 : 8位

Moto#2 : 9位

総合 : 9位 **トップ10入り**

Pro Ski Open 予選 : 9位 (決勝進出)

Moto#1 : 15位

Moto#2 : 7位

Moto#3 : 9位

総合 : 11位

Ski Classic 2-Stroke

このカテゴリーは、プロ・アマクラスになり、2 ストローク艇での競技になります。従って、ハイドロスペースの S4 のみ参戦が認められていないクラスになります。僕は、このクラスに USA チーム “KMG Racing” 制作のカワサキ SXR800 で参戦しました。

昨年もこのクラスにエントリーし、自分の全力を出したものの惜しくも 3 位という結果で終わってしまいました。ですので、“今年こそ絶対にチャンピオンになる!!” という気持ちでレースに臨みました。

このクラスには、世界チャンピオンのダスティン・モツリスの弟、タイロン・モツリス（南アフリカ・ナショナルチャンピオン）がコマンダー製のコンプリートマシンで参戦したり、各国の強豪が多数参戦していました。

グリッド決めではアウトコースからのスタートでした。ラバーバンドが切れるのと同時にスタートし、見事にホールショットを獲りました!! 最終ブイもトップで曲がり、1 位でホームストレートを通しました。その後は 2 位以下を徐々に離れていき、周回遅れを 4 艇作ってのゴールとなりました。

決勝の Moto#1 ではグリッド決め予選で 1 位でしたので、スタートポジションはポールポジションを選べました。今回もホールショットで合流ブイに差し掛かり、トップでホームストレートを通しました。Moto#1 もグリッド決め予選同様に 2 位以下を大幅に離れていき、トップフィニッシュしました。

Moto#2 でもスタートグリッドはポールポジションを選びました。今回も他の誰よりもスタートを上手く決め、ホールショットを獲得しました。そしてそのままトップを走り続け、悲願の 3 度目のワールドチャンピオンとなりました!!!!

ゴール後、僕のアメリカでのレースを全面的にバックアップしていただいている KMG Racing チームのメンバー全員が僕の元に駆け寄ってきてくれて歓喜の声を上げてくれました。その時僕はチャンピオンになれたことを改めて実感し、同時にチャンピオンになれてよかった!!と思いました。

3 × World Champion

GP Ski

GP Ski はエントリー人数が制限されていて予選がありません。その為、24 艇のフルグリッドでのグリッド決めがあり、そして Moto#1・Moto#2 とレースが行われました。

当初、この GP Ski からカワサキ SXR 1200cc の 3 ミリストローカー艇を使用予定だったのですが、レース前にクランクケースが割れてしまった為に止むを得ず Ski Classic 2-Stroke クラスで使用した艇での参戦となりました。

グリッド決めではアウトコースからのスタートでした。抜群のスタートを決めたものの、1 ブイまでに続々と他艇に抜かれていってしまい合流ブイでは 13 位でした。しかし 1 周目で 3 艇抜いて 10 位まで上がり、その後も選択コースで 2 艇抜いて 8 位まで上がりました。

最終ラップにはログジャンプで前艇と並びかけ、次のブイで抜いて 7 位に上がりそのままの順位でゴールしました。

Moto#1 ではインコースをチョイスしました。スタートは上手く決まったものの、周りの選手に自分のラインを潰されてしまいインの 9 位で最終ブイを曲がりました。合流では 18 番目でした。また今回もここから徐々に追いついていき、1 周目で 4 艇抜いて 14 位まで上がりました。そこから 1 艇ずつパスしていき、3 艇抜いて 11 位でのフィニッシュとなりました。しかしレース途中にマシントラブルでリタイアした選手が 3 人いたため、結果的には 8 位と最終リザルトが発表されました。

Moto#2 では Moto#1 の時とは逆にアウトコースをチョイスしました。アウトコースだとインコースとは違い“逃げ場所”が多く、他の選手にラインを潰されにくいからです。今回もスタートは上手く決まりましたが、1 ブイまでに何艇にも抜かれてしまいアウトコースの 7 位で合流では 13 位でした。ここから追いついていき、リタイアした 2 名の選手を含めて 4 艇抜いて 9 位でのゴールとなりました。そして総合成績も 9 位となり初めての Pro GP Ski でトップ 10 を果たしました。

Pro Ski Open

去年は僅かの差で決勝へ進む事ができず予選落ちとなってしまった為、今年は決勝進出を第一目標にし、そして Pro Ski でもトップ 10 入りを目指して走りました。また Pro Ski Open ではダスティン・モツリスの弟タイロン・モツリスが使用予定だった、コマンダー社製のコンプリートエンジン（1200cc）を積んだ社外ハル（トリニティー製）の船を貸してもらえらる事がレースの前日に決まりました。（タイロンがレースで怪我をしてレースに参戦できなくなった為、その船のコマンダー社のオーナー・スティーブン氏が Ski Classic 2-Stroke クラスでタイロンより速かった僕に船のサポートをしようと決めて頂けたそうです。）

予選ではアウトコースからのスタートでした。今まで沢山のスタートをこなしてきていたせいか、誰よりも早くスタートを決め 1 ブイの中盤まではトップに出ていました。しかしそこからのトップスピードが他の選手の船から比べると足らず、周りから沢山の船に抜かれていってしまいました。アウトコースの 5 位で合流では 12 位でした。予選を突破するためには 9 位以内に入らなければいけません。1 周目で 11 位に上がり、残り 2 周で 10 位に上がりました。そして最終周にログジャンプで 9 位に上がり、そのままゴールして第一目標の“決勝進出”を果たすことができました。

Moto#1 ではアウトコースからのスタートでした。スタートでは両サイドにニコラス・リウス、スティーブン・ダリアック、ジーン・パプティスト・ボッティなどのトップライダーが軒を連ねていました。スタートではアウトコースの 6 位で合流では 14 位でした。1 周目には引き波で水面が荒れてバランスを崩すライダーが多い中、1 人ずつ確実に抜いていき 10 位まで上がりました。その後も順位を上げて 6 位まで上がりました!! しかしここで大きなミスをしてしまいました。バックストレートへ向かう 180 度ターンをするブイでブイ

に乗り上げてしまい、横に転倒してしまいました。その後すぐに乗りこめればよかったものの、ライフジャケットがハンドルバーに引っかかってしまい船を起こすのに手こずってしまいました。その後なんとか乗りこんだものの、エンジンに水が入ってしまい、エンジンの中の水を抜いてようやくエンジンがかかった頃には周回遅れにされてしまいました。それから何艇か抜いていったものの、15位でのゴールとなってしまいました。

Moto#2ではアウトコースからスタートし、合流では13位でした。今回も1周目で順位を上げて10位まで上がり、その後はMoto#1で起こしてしまったようなミスをしないうように心掛け、着実に順位を上げていき7位でのフィニッシュとなりました。

最終レースのMoto#3ではスタートでラインを塞がれてしまい、アウトコースの7位で合流では15位でした。1周目で12位まで上がり、その後もペースを落とさずに走りました。目前にケビン・レイテラーが見えたものの追い抜く事ができず、最終ラップには9位まで上がってのゴールとなりました。そして総合成績はケビンを追い抜く事ができなかった為に11位となってしまいました。

レースを終えての感想

今年のワールドファイナルを良かった点・悪かった点で分けると、

<良かった点>

- ・ **3度目の World Champion** になれた点
- ・ **自分の実力で速い船を獲得できた**点
- ・ **初めての Pro GP Ski でトップ 10** に入れた点
- ・ **Pro Ski Open で決勝進出**を成し遂げた点

<悪かった点>

- ・ Pro Ski Open でトップ 10 入りできなかった点
- ・ 大事な場面で大きなミスをしてしまった点
- ・ トップライダーから比べるとログジャンプでの失敗が多かった点
- ・ 体力面でトップライダーと比べると劣っていた点

などです。

自身3度目の World Champion を獲得できたことはとても嬉しく、このような結果を残せたのも一重にスポンサーの方々のお力添えから生じた結果だと思っています。また、船の持てるポテンシャルを十分に発揮できたと思います。そして、世界各国からの沢山のトップライダーがひしめいている Pro Ski Open で決勝に進出し、レベルの高いレースをこな

せ良い経験となりました。

今後のレースでは今回のレースで経験した自分の反省点（体力向上、精神力向上など）を生きし、次の良い結果へと繋げられるようにしていきたいと思います。

Team WPS Japan

#1 小原 聡将



